

分科会： 大会2日目の公開シンポジウム終了後、分科会等小集会を開くことができます。時間は、1集会あたり1時間を限度とします。開催を希望されるグループは、世話人を決めて10月11日（金）までに申し込んでください。

標本同定会： 甲虫類標本の同定会を行います。ご所蔵の同定未解決の標本をお持ちよりください。なお、同定依頼する標本は必ずマウントされ、データラベル付きのものにしてください。

宿 泊： 宿泊の斡旋は行ないません。厚木市内およびその周辺には、ホテル、旅館等がございます。また、新宿、横浜などからも十分に通うことが可能です。

大会事務局： 〒243-0034 神奈川県厚木市船子1737
東京農業大学農学部昆虫学研究室（担当：小島弘昭）
Tel. 046 - 270 - 6365（小島直通）
Fax. 046 - 247 - 4338（農学科共通）
E-mail: 小島：h3kojima@nodai.ac.jp

東九州自動車道建設に伴う麿松池の環境保全対策に関する現状報告

東九州自動車道建設に伴う麿松池の環境保全対策に関しては、本学会からの要望を受けて組織された「東九州自動車道上毛町域における環境保全及び道路構造に関する委員会」での議論の末、当初の「池の一部埋め立て案」から「池を跨ぐ架橋案」への変更が決定され、この変更案に基づく工事が昨年秋から始まった。着工後に開催された第9回委員会では、池に生息する動植物相に関する着工前後の比較調査の結果が公表され、着工後もキボシチビコツブゲンゴロウ等の希少種の生息が確認されていることが報告された。委員会に先立って実施された現場視察では、橋梁設置工事に伴う池への土砂や濁水の流入防止対策も計画どおり実施されていることも現認できた。10月には現場視察を含む第10回委員会の開催が予定されている。

（自然保護委員会 文責：荒谷邦雄）

2013年度採集例会報告

2013年度日本甲虫学会採集例会は、7月20日から21日にかけて岐阜県日和田高原キャンプ場において行われた。

運悪く当日は他の学会の行事等と日程が重なり、また参加予定者に急遽トラブルが発生したりして参加者は10名であった。16名用のコテージを借り切って独占し、他の客に気を遣うことなくエンドレスで懇親を深めることができたのが、コテージでしか味わえない魅力であり、参加者全員に対して十分な話ができる人員規模であった。

今年は7月後半に咲く花の開花時期が異常に早まっており、咲き始めのノリウツギに加えて、場所によって部分的に咲き残っていたトリアシショウマ、ミヤママタタビ、ゴトウヅル、クリの花を同じ時期に採ることができた。

長峰峠の長野県側にある九蔵峠には状態のよいノリウツギがあって、多数のハナカミキリが飛来していた。フタコブルリハナが多く飛来し、ジャコウホソハナ、コウヤホソハナが採集されている。

チャオ御岳スキー場の咲き残りのトリアシショウマにはミヤマヒメハナカミキリ等のヒメハナカミキリ類、千間樽沢のミヤママタタビからはニセハムシハナカミキリが得られた。ロッジ敷地内のピーティングでヒトオビチビカミキリが得られている。

その他の甲虫としては、ゾウムシ類が豊富でシギゾウ sp., タコゾウムシ sp., クチカクシゾウムシ sp. 等の凶鑑に載っていないと思われる種を自己初採集できた。ヒゲナガヒメヒラタムシやオオセダカコクヌストも採集できたが、一昨年採集したアラメホソヒラタムシやオオヒラタコクヌストは採集できなかった。